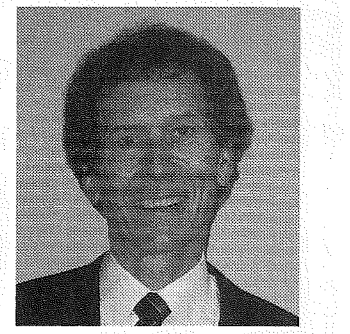
カナダ羽毛協会が提案する価値ある「カナダ稀少羽毛」

カナダ羽毛協会(マイケル・デ・ラ・プレイス会長=本部・カナダトロント市)は、カナダ政府関係機関と連携し、高品質で希少性の高い「カナダ稀少羽毛」を、明確な保証体制のもと、日本支部(稲木貢支部長)を通じて、安定供給している。同協会は2016年に設立40周年を迎えるが、この〝節目の年〟に向けて、今年は、「カナダ稀少羽毛」の価値観を共有している製販各社との協業で、より活発な販促活動を展開するとしている。新春特別企画として、カナダ羽毛協会首脳へのインタビューと、国内製造卸の取り組みを紹介するなどして、「カナダ稀少羽毛」にスポットを当てた。

インタビュー

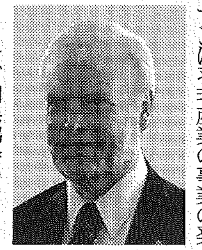


カナダ羽毛協会本部
B・プライド副会長

日本市場を特別視
最上級ダウン(カナディアンコロニアル)提案

——カナダ羽毛協会について。

「カナダ羽毛協会(もともとはカナダ羽毛製品協会と呼ばれていました)は、羽毛産業に関係する個人企業のグループによって1976年に設立されました。グループにはベッディングメーカーはもちろん、スリーピングバッグメーカー、アウトウエアメーカーや羽毛加工などの企業が多く含まれていました。このグループのカナディアンビジネスマンは羽毛産業の事業の発展に献身的でした」



カナダ羽毛協会のマイケル・デ・ラ・プレイス会長

「創業者は、カナダ最大の羽毛加工企業の社長であったダグラスプライド氏でした。法律により、協会の規格が設けられ、協会は連邦政府と密接に共同作業を行い羽毛製品に対する政府基準の規格を作成、それが後に羽毛産業における羽毛製品の政府検査基準になりました」

「カナダ羽毛製品協会の役員は、ふとんや枕に使われる輸入品のダウンプルーフコットン生地の関税を免除するよう政府にたゆまず働きかけました。この目的は達成され、新たなデューティーフリーの施行は99年6月17日に効力を発しました」

「協会のトレードマークが設定され、縫込みラベル、下げ札そのほか販売促進資料に使用することになり2001年に品質の保証としての『DOWNMARK』がデザインされました。02年には協会の呼称を新しい名前のカナダ羽毛協会(DAC)に決めました」

「また、協会は〝マーケットマインダー〟と呼ばれる監視プログラムを業界内にスタートさせました。その後、呼称を〝マーケットモニター〟に変更しました。このプログラムは、市場における羽毛製品の品質、不正表示や誤解を招く広告などを継続して監視することが目的でした。不正問題や誤解を招く事態が発覚した場合には、関係政府当局より警告が発せられ、製品の交換や、ストアからの製品撤去に処せられます」

「このプログラムの呼称は変更され、現在では〝ダウンチェック〟と呼ばれています。この新しい呼称は、消費者や協会会員に代わって行われている仕事として良い名前であると協会役員は考えています」

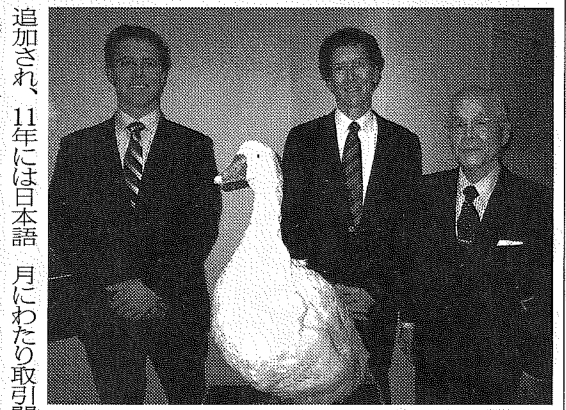
「協会の最初のウエブサイトは、Homepageを含め96年に開始されました。01年にウエブサイトの名前はロゴネームの変更と共にdownmark.comに変更されました。それ以来、ウエブサイトは05年5月に英語バージョンのサイトの開始後、何回もの変更を重ねました。フランス語バージョンは07年春に追加され、11年には日本語及び中国語のサイトを追加しました。10年にはDACの支部を日本に開設しました。ウエブサイトのアドレスはwww.dac.jb.gr.jp/です」

——カナダ羽毛協会の副会長としての役割は。

「副会長としての私の役割は、隔月の役員会議への出席、年次総会でのホスト、会員の率先議題の進行に寄与することなどであります」

「また、私はカナダ羽毛協会の役員会より、カナダ羽毛協会日本支部の代表も任命されています。それはFeather Industries Canada社が、日本企業との長い年月にわたり取引関係があるからです」

「また、私は東京のカナダ大使館の絶大な後援を受けて同大使館の施設の利用により、DAC日本支部の会員や日本のカスタマーの販売促進活動の催事において、カナダ羽毛協会の代表としての責任を負っています」



カナダ羽毛協会両首脳とFeather Industries Canada社のアレックス・プライドマネージャー(左)

——日本支部設置の意義と日本市場への期待は。

「カナダ産羽毛や羽毛製品の需要は世界中のマーケットで高まっています。しかし、日本市場は特別です。日本では25年以上も前から最高級ダウンの需要が高まっており、カナダ羽毛協会は海外支部の開設には、日本がその候補の最上にランクされていました」

「日本支部の役割は、日本でのダウンマークのメンバーとブランドの高揚、プロモーションをアシストし、カナダ産羽毛の偽装表示問題に対処し、メンバー(会員)を守ることにあります。この点に関しては、カナダ羽毛協会日本支部は大きな成功を果たしていると思っています」

——「カナディアンコロニアルダウン」の特徴と品質管理、安全性は。

「カナディアンコロニアルダウンは世界的に有名です。過酷な気象条件下のカナダ大草原地帯の広大な農牧場でグースやダックが飼育されている環境条件が優れた保温性、高いフィリングパワーや最高級品質のダウンをつくり出すのです」

——ハテライトコロニーへの買い付け(回数)と量などについては。年1回4カ所と言われているが。

「買い付けができるのは年に1度だけです。数量は限定的ですが、毎年買い付けできる羽毛は価値が高いのです」

「飼育のサイクルは4月から10月です。鳥が成熟すると食肉用に屠殺されます。肉はコロニーで生活している人達のために使われています」

「Feather Industries Canada社は、カナダハテライトコロニーから継続的に60年間にわたって買い付けをしています。私の代になってから27年になります。それは、私共の特別な関係の構築や、平等な取り引きの実行及び我が社がカナダの羽毛社会の中に存在していることで、羽毛の収穫時期である毎年11月に生産量の全体の95%以上を確保できるのです」

——ハテライトコロニーの現況、品質維持、管理などについては。

「ハテライトコロニーは本当に肥沃でカナダ全土で400カ所が存在し、4つのカナダ西部地帯に広がっています」

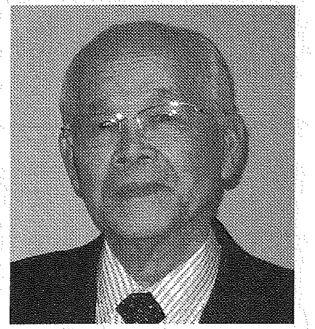
「そこでは、多種の家畜、例えばグースやダックはもちろん、馬やターキー(シチメンチョウ)、鶏、豚、牛を飼育しています」

「ハテライトの人々は、小麦、大麦、菜種、大豆などを育て収穫するという信じがたいほどの農夫です。彼らはこの地球上で最も〝プロフェッショナルな農夫〟と言えます。何一つ無駄なく、彼らは行き届いた〝農耕の管理人〟です」

「カナダにとって、こうした人々がいることは非常に幸せなことであります。カナダ羽毛協会並びにFeather Industries Canada社は稀少価値の高いカナダの自然の恵みであるグースやダックダウンのメジャーサプライヤーと共生していることは誠に幸運であると考えています」

羽毛の買い付け、品質チェックは厳格に…

インタビュー



カナダ羽毛協会日本支部
稲木　貢支部長

カナダ羽毛の普及に努力
ホップライオンジャパン窓口に

——日本支部の設立の意図は。

「日本国内において、カナダ羽毛産業への信頼を高め、業界が発展することを目指すと共に、カナダ産羽毛の確かな品質を広く日本の羽毛業界並びに消費者の方々に認知して頂くために、その活動拠点として日本支部を設置しました」

——日本支部の役割と使命は。

「まず、カナダ産羽毛を紹介するための日本国内向けプロモーション活動の企画、立案とその実行。次に、カナダ産羽毛の品質向上、維持と保証のため関係機関の協力のもと品質検査証の発行を行います」

「3つ目は、カナダ羽毛協会発行のダウンマークの日本国内製品に向けた日本語版の発行と縫込みラベルなどを有償支給します」

「4つ目は、カナダ産羽毛の品質を保証するシリアルナンバー付きのギャランティーカードの発行と管理を行います」

「5つ目は、カナダ稀少羽毛クラブメンバーシップカードの発行と管理、消費者への情報提供を行います」

「最後に、カナダ産羽毛を使った製品の市場展開の監視と消費者に誤認を招く記述、広告などの監視及び関係機関と協力し警告を発信致します」

——偽装カナダ産羽毛掛けふとん販売会社への警告とその後のマーケットの変化は。

「10年12月から11年にかけて14社(ネット通販店舗、供給先、メーカー)に順次調査警告文を発送しました」

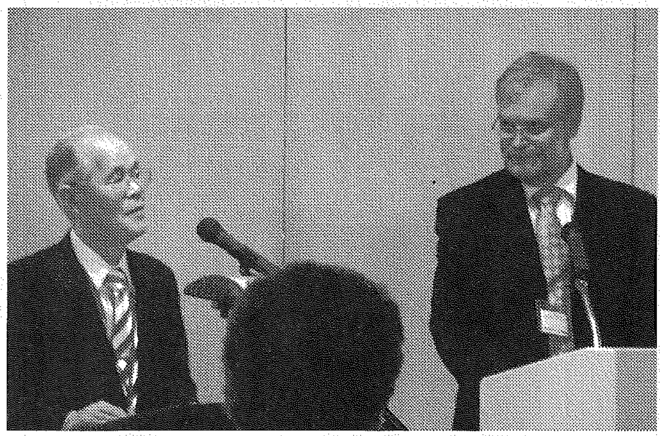
「その後、12年は3社に減り、昨13年は1社あったが、〝売り切れ表示〟のため、警告文は発送しませんでした。ちなみに、13年11月はゼロでした」

——顧客へのアフターサービスの体制は。

「お買い上げ頂いたお客様へのCS(カスタマーサービス)の観点から、カナダ羽毛メンバーシップカードの発行と、〝サンキューカード〟をカナダからエアメールにて発送しています。現在までに、スリーピー様、ケントハウス様ほか400通、TV、ラジオ通販330通を数えています」

——日本支部の今後の方針は。

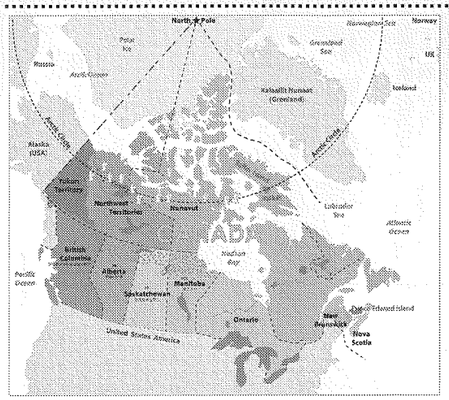
「台湾ホップライオン(合隆)のサポートのもと、羽毛原料販売会社として日本最大手である㈱ホップライオンジャパンを窓口としたカナダ産羽毛の販売を推進し、会員の拡大に努め、将来的に日本エリアエージェントシップも考慮に入れています」



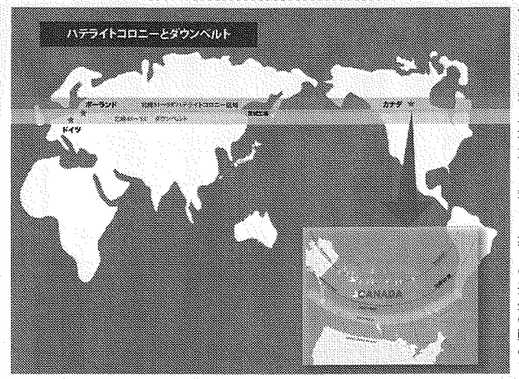
2010年カナダ大使館(東京)でのレセプションであいさつする稲木支部長(左)

羽毛の買い付け、品質チェックは厳格に…

などについては。年1回4
4カ所と言われているが。
「買い付けができるのは年に1度だけです。数量は限定的ですが、毎年買い付けできる羽毛は価値が高いのです」
「飼育のサイクルは4月から10月です。鳥が成熟すると食肉用に屠殺されます。肉はコロニーで生活している人達のために使われています」
「Feather Industries Canada社は、カナダハテライトコロニーから継続的に60年間にわたって買い付けをしています。私の代になってから27年になります。それは、私共の特別な関係の構築や、平等な取り引きの実行及び我が社がカナダの羽毛社会の中に存在していることで、羽毛の収穫時期である毎年11月に生産量の全体の95%以上を確保できるのです」
――ハテライトコロニーの現況、品質維持、管理などについては。
「ハテライトコロニーは本当に肥沃でカナダ全土で400カ所が存在し、4つのカナダ西部地帯に広がっています」
「そこでは、多種の家畜、例えばグースやダックはもちろん、馬やターキー（シチメンチョウ）、鶏、豚、牛を飼育しています」
「ハテライトの人々は、小麦、大麦、菜種、大豆などを育て収穫するという信じがたいほどの農夫です。彼らはこの地球上で最もプロフェッショナルな農夫と言えます。何一つ無駄なく、彼らは行き届いた〝農耕の管理人〟です」
「カナダにとって、こうした人々がいることは非常に幸せなことであります。カナダ羽毛協会並びにFeather Industries Canada社は稀少価値の高いカナダの自然の恵みであるグースやダックダウンのメジャーサプライヤーと共生していることは誠に幸運であると考えています」



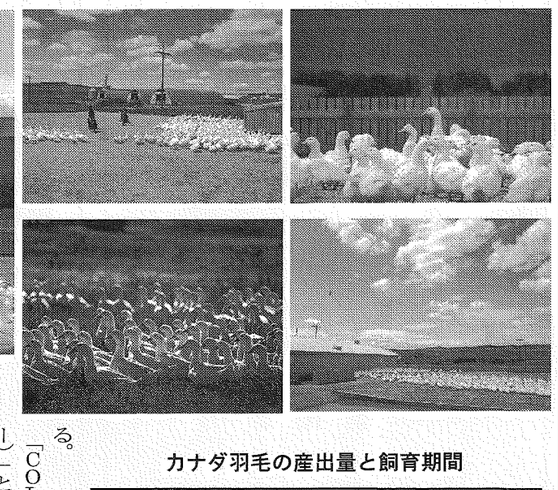
※マップ内の※がコロニー

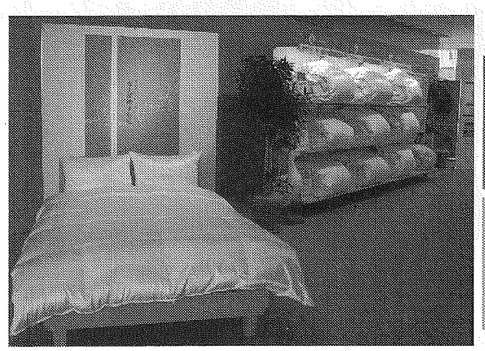


ダウンベルトとハテライトコロニー

カナダ羽毛の良さとトレース性の確かさ

純粋なカナダ産羽毛を使用した掛けふとんには、カナダ羽毛協会日本支部がカナダ産羽毛の品質を証明し認定しているダウンマークタグなどが付いている。
〝DOWNMARK®〟は、カナダ羽毛協会（本部＝カナダトロント市）の登録商標である。
同協会日本支部では、「カナダ産羽毛掛けふとんをお買い求めの際はダウンマークタグや縫込みラベルの付いているふとんをお奨め致します」と積極的に呼び掛けている。
カナダ現地ラボラトリー及び国内専門機関において、厳格に純粋性・清潔性・組成・かさ高性などの検査がされた「カナダ稀少羽毛」を使った製品には、カナダ羽毛協会日本支部で発行されるシリアルナンバー管理された「ギャランティーカード」と「ダウンマークタグ」や「縫込みラベル」などが付いている。
これらは、純粋なカナダ産羽毛を保証する〝安心と信頼の証〟となる。
「カナダ稀少羽毛」は〝環境先進国〟カナダの豊かな自然との共生の輪の中・ハテライトコロニーで、人々の命の糧（かて）として大切に育てられたグースやダックの羽毛である。
健康に育った水鳥達の羽毛は、ナチュラルでピュアでクリーン。かつ、保温性に優れ、限られた一定量しか採取できない大変希少性の高いダウンである。
カナダ羽毛協会の厳格な品質管理のもと安定供給される、「カナダ稀少羽毛」の概要を紹介する。
世界第2の広大な国土を有するカナダ。その面積は日本の約26倍と言われている。
北緯40度から80度の北極圏にまで広がる国土は、地球上で最も厳しい自然条件でありながらも、カナダの食料自給率は、極めて高い水準を保ち、世界でも有数の〝農業立国〟となっている。
また、カナダは厳格な「新カナダ環境保護法」のもとで、生物の多様性と変化に富む生態系を維持している〝グリーンカントリー〟である。
その代表的な姿は、「HUTTERITE（ハテライト）」と呼ばれる、500年も前の中世に、ドイツから移ってきた、アーミッシュやシェイカーに似た宗教的教義のもとでの、集団生活様式を今も続けながら自然を愛し自然と共生している人々の生活コミュニティーの中で見ることができる。


ハテライトコロニーで大事に飼育されるグースとダック


2010年4月19日、カナダ大使館イベントで「カナダ稀少羽毛」を使用した最上級の羽毛ふとんを展示

〝信頼の証〟シリアル管理されたギャランティカードとダウンマークタグ

「カナダ稀少羽毛ふとん」を購入した顧客には、「カナダ稀少羽毛クラブメンバーシップカード」が〝サンキューカード〟と共に、カナダからエアメールで届けられる

カナダ羽毛の産出量と飼育期間

鳥種		粗毛	ﾊｲﾀﾞｳﾝ	飼育期間
Hutterite	ﾎﾜｲﾄｸﾞｰｽ	375,000kg	50,000kg	約26週
	ﾎﾜｲﾄﾀﾞｯｸ	750,000kg	75,000kg	約18週
Pekin	ﾎﾜｲﾄﾀﾞｯｸ	1,500,000kg	180,000kg	7週
Farm	ﾎﾜｲﾄｸﾞｰｽ	20,000kg	5,000kg	11～14週
	ﾎﾜｲﾄﾀﾞｯｸ	40,000kg	6,000kg	8～12週
Wild	ｸﾞﾚｰｸﾞｰｽ	6,000kg	1,400kg	(2～20年)
Eider			500kg	(2～15年)

( )内は野生のため生息期間

信頼厚いカナダ産羽毛を

㈱ロマンス小杉　社長　小杉源一郎氏

2011年7月カナダ大使館後援「ロマンスチェーン50周年」プレイベント
写真右はロマンス小杉・小杉源一郎社長

◇◆
創業以来60余年、今日までの発展の実を挙げることができましたのも、皆様の変わらぬご支援の賜物と、心より深謝致しております。まだ、終戦の混乱が残る1946年（昭和21年）に、故・小杉源蔵はロマンス小杉の前身である小杉商会を創業しました。
その翌年の47年（昭和22年）に小杉商事㈱を設立致しました。
51年（昭和26年）には寝具業界では珍しい初の展示会「杉彩会」を実施し、注目と評判を集めました。57年（昭和32年）は〝洋スタイルふとん〟は、かの創業者である小杉源蔵でございます。
それから四半世紀（25年）余り、バラつきのない高品質の羽毛ふとんを提供させて頂いており、中でもカナダ産羽毛はトレーサビリティーの確立と共に、〝安心・信頼〟を商品として、皆様にお届けし続けております。
長年、カナダ希少羽毛を展開している、㈱ロマンス小杉（京都）の小杉一郎社長に、同社の創業60余年に及ぶ企業の軌跡と同社が主宰するVC（ボランタリー・チェーン）「ロマンスチェーン50周年」の歩み、更には、カナダ産「ノースポール」販売から節目の25年を迎えての感慨などを寄稿して頂いた。
「ロマンスふとん」が大ヒット。62年（昭和37年）、大型店に対抗すべく「ロマンスチェーン」を設立致しました。
一昨年、その「ロマンスチェーン50周年」の記念式典を開催できましたが、そのプレイベントとしてカナダ大使館でのイベントを開催させて頂きました。
そもそも当社では、80年代羽毛ふとんが普及し始めた頃、品質とトレーサビリティーに優れたカナダ産の希少な羽毛をいち早くブランディング。
その素晴らしい羽毛に「ノースポール」と命名したのは、

2010年4月20日カナダ大使館イベント
ロマンス小杉のブース

情報レーダー

写真左からカナダ羽毛協会日本支部・稲木支部長、St. Geneve社・ブライアン・アンダーソン氏、カナダ羽毛協会・マイケル・デ・ラ・プレイス会長、ロマンス小杉・井上雅弘氏、カナダ羽毛協会・ブライアン・プライド副会長、ホップライオンジャパン・オリー・チェン社長